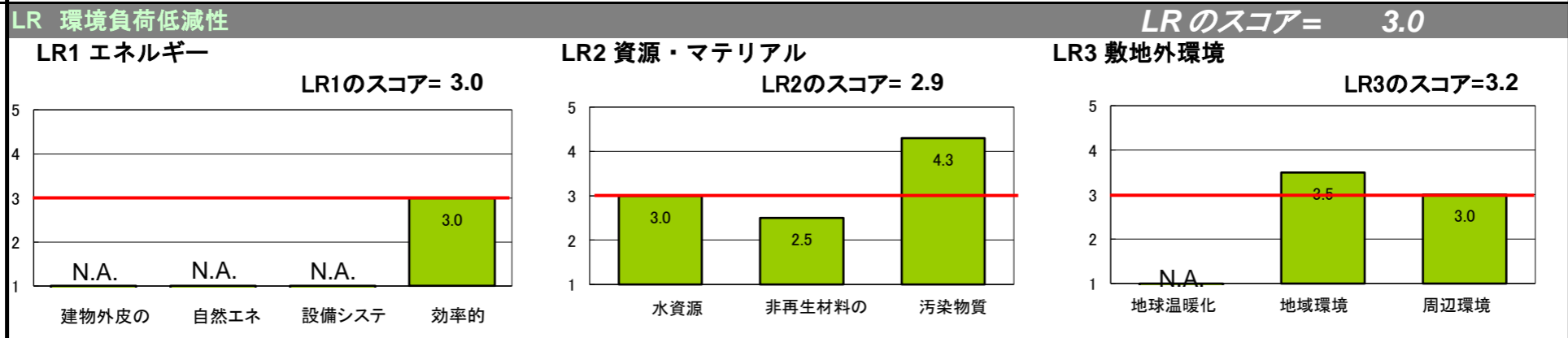
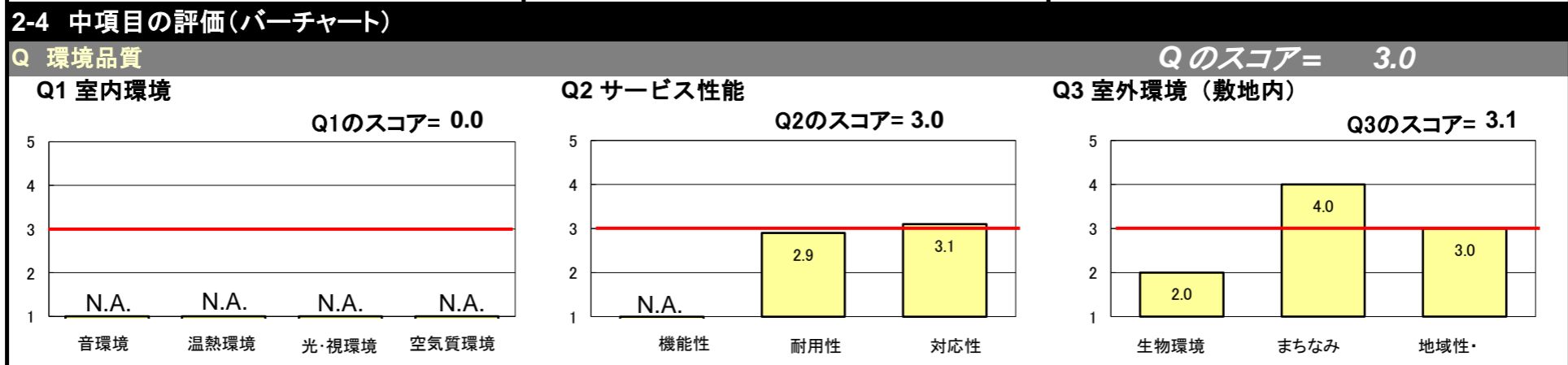
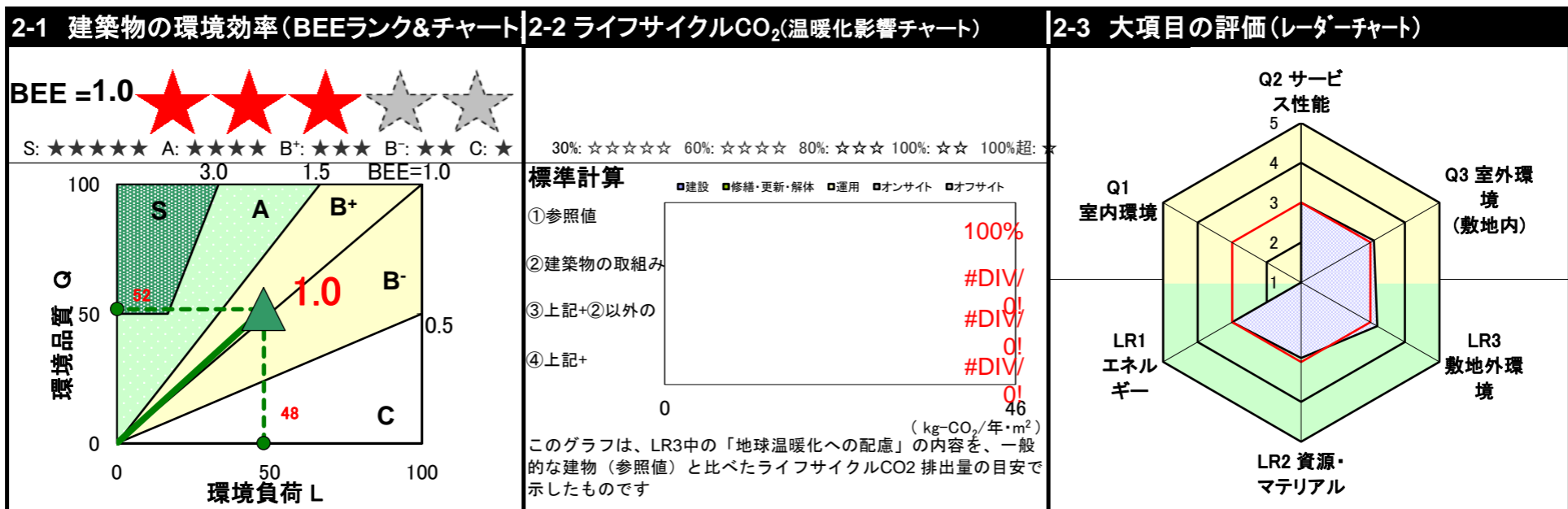


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東郷セントラル計画 駐車場D棟	階数	地上5階
建設地	底地:愛知県愛知郡東郷町大字春木字南見額1997番1 他	構造	S造
用途地域	近隣商業	平均居住人員	0 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,500 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2020年9月 予定	評価の実施日	2019年1月21日
敷地面積	88,752 m ²	作成者	有路 友博
建築面積	3,939 m ²	確認日	2019年1月25日
延床面積	19,305 m ²	確認者	松下 勝



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>N.A</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>31.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.8</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									3.0	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温				3.0	-	-				
2 外皮性能				3.0	-	-				
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-				
2.2 湿度制御				3.0	-	-				
2.3 空調方式				3.0	-	-				
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率				3.0	-	-				
2 方位別開口										
3 昼光利用設備				3.0	-	-				
3.2 グレア対策										
1 昼光制御				5.0	-	-				
3.3 照度				3.0	-	-				
3.4 照明制御				3.0	-	-				
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質				3.0	-	-				
4.2 換気										
1 換気量				3.0	-	-				
2 自然換気性能				3.0	-	-				
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	3.0			
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-				
2 喫煙の制御				3.0	-	-				
Q2 サービス性能						0.43			3.0	
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性				3.0	-	-				
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-				
3 バリアフリー計画				3.0	-	-				
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-				
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-				
3 内装計画				3.0	-	-				
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-				
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性				0.5	2.9	0.52			2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	2.5	0.33				
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.50				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.50				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性				0.1	3.5	0.19				
1 空調・換気設備				3.0	-	-				
2 給排水・衛生設備				3.0	-	-				
3 電気設備				3.0	3.0	0.50				
4 機械・配管支持方法				3.0	4.0	0.50				
5 通信・情報設備				3.0	-	-				

耐震クラスA

3 対応性・更新性					0.4	3.1	0.48	-	-	-	3.1	
3.1 空間のゆとり			②	仕上材を痛めず更新できる	0.3	1.0	0.31	-	-	-		
1 階高のゆとり					-	1.0	1.00	-	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	-	-	-	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり						3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性						0.3	5.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性					-	-	-	-	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	-	-	-	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	5.0	1.00	-	-	-	-			
4 通信配線の更新性			3.0	-	-	-	-	-	-			
5 設備機器の更新性			3.0	-	-	-	-	-	-			
6 バックアップスペースの確保			3.0	-	-	-	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	3.1		
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	2.0	0.30	-	-	2.0		
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	評価ポイント4	-	4.0	0.40	-	-	4.0		
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.0	0.30	-	-	3.0		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			-	3.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.0		
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	3.0		
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-	-	-	-		
2 自然エネルギー利用					3.0	-	-	-	-	-		
3 設備システムの高効率化					3.0	-	-	-	-	-		
4 効率的運用					1.0	3.0	1.00	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	1.00	-	-	-		
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	2.9		
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15	-	-	3.0		
1.1 節水					3.0	-	-	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					1.0	3.0	1.00	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.5	0.63	-	-	2.5		
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.21	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	1.0	0.21	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	-		3.0	-	-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	-		3.0	3.0	0.25	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	4.3	0.22	-	-	4.3		
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	5.0	0.68	-	-	-		
1 消火剤					-	-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)					-	5.0	1.00	-	-	-		
3 冷媒					3.0	-	-	-	-	-		
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.2		
1 地球温暖化への配慮			①		-	-	-	-	-	-		
2 地域環境への配慮					0.5	3.5	0.50	-	-	3.5		
2.1 大気汚染防止					-	5.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減		独自			-	3.0	0.25	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-		
3 交通負荷抑制		独自			-	5.0	0.25	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮					0.5	3.0	0.50	-	-	3.0		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 騒音		独自			-	3.0	1.00	-	-	-		
2 振動		独自			-	-	-	-	-	-		
3 悪臭					-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70	-	-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)東郷セントラル計画 駐車場D棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:31.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)東郷セントラル計画 駐車場D棟

計画上の配慮事項	
総合	駐車場内を原則一方通行とし、駐車時の渋滞等の緩和によりCO2削減に努めている。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	露出配線により高いメンテナンス性を確保。
Q3 室外環境(敷地内)	燃焼設備は設けてなく、高熱排出は無い。
LR1 エネルギー	運用管理体制が組織化され、責任者が指名されている。
LR2 資源・マテリアル	建物がほぼ躯体の為、再利用が可能。また、有害物質の発生もない。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車場を確保する事で、周辺への交通負荷に配慮。運用時の大気汚染はなし。
その他	特になし